

2015春季講演会(東海大)シンポジウム

シンポジウムの主題(全体テーマ名)

日本語	最先端の電子・集束イオンビーム装置技術
英語(必須)	State of the art technology in electron and focused-ion-beam apparatuses

世話人

	氏名	所属	
1	高岡 義寛	京都大学 工学研究科	

企画の趣旨および内容説明

<p>・企画の趣旨: 電子およびイオンから成る荷電粒子ビームは、その優れた制御性や汎用性から、超微細加工、材料改質、機能薄膜形成、分析プローブとして常に最先端技術を先導してきており、半導体工業、金属工業、高分子工業等の産業界から常に関心と強い期待が持たれている。</p> <p>電子顕微鏡および集束イオンビーム装置はデバイス・材料・プロセスの評価技術として必須である。近年、電子・イオンビーム光学系の進展と共に装置性能が飛躍的に向上しており、本シンポジウムにおいて、最先端電子顕微鏡・電子ビーム描画および集束イオンビーム装置技術について応用物理学会員に広く周知していただくことを目的としている。</p> <p>・企画母体(分科会、支部、研究会等(もしあれば)): 日本学術振興会第132委員会「荷電粒子ビームの工業への応用」</p> <p>・トピックス性・過去の実績・準備状況: 学振132委員会の研究会(5回/年)で、最先端のビーム装置技術に関する研究成果の発表会を行っている。その中で、話題性の高いテーマを選んで、プログラムを組んだ。</p> <p>・チュートリアル・一般セッションとの関連性:あり 「ビーム応用」とのセッションとの重複を避ける。</p> <p>・想定できる参加者のコミュニティー(分科、分野等):ビーム応用、半導体A、半導体B</p>
--